

第三者評価結果

事業所名：しらかば逗子乳児保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a

<コメント>

全体的な計画は、園の理念や指針、目標のもと、保育の内容は年齢ごとに養護と教育の5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）について記載している。園で力を入れている食育についても載せている。また、生活防犯や交通安全、健康支援、地域との連携、子育て支援などを記載している。食育については、離乳食や行事食など、様々な食育を行っている。保護者の子育て支援は積極的に行っているが、地域の方たちへの子育て支援までには至っていない。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a

<コメント>

日当たりの良い園舎で、保育室すべてが明るい環境にある。夏はエアコンや扇風機を使い、常に換気を行っている。冬場になると乾燥が強くなるため、加湿器だけでなく濡れタオルや菌から守るプロテクターなどを使用し、子どもも保育士も水分摂取に気を付けている。這い這いをする子どもがいるため、保育室の床は常に清潔を保ち、小さなごみが落ちていないよう気を付けている。子どもの椅子やテーブルは、月齢にあったものを使用し、食器なども発達に応じたものを使っている。朝が早いので、午前中に眠ってしまう子どもには、安心して眠ることができるスペースを確保している。人的環境としての保育士には、常に子どもが主体となる保育を行うよう指導している。

A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
---	---

<コメント>

子どもの情緒の安定を図り、スキンシップを多く取りながら、愛着関係を作り上げている。性格が違い、やりたいことが違い、発達の状況も違う子ども一人ひとりをしっかり見て、保育を行っている。特に自分に目を向けてほしいという心を理解し、しっかりと向き合っている。皆が座っているときに、そわそわしている子どもには、「今何がしたいの？」と声掛けしながら、何をしようとしていたのかを理解するようにしている。子どもの気持ちが分かると「今これがしたいと思っていたんだね」と受け止め、子どもが満足できるようにしている。

A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a
---	---

<コメント>

子どもたちは、食事前には一人ひとり手を洗い、椅子に座っている。椅子に全員が座ると、絵本の読み聞かせが始まり、その間に他の保育士が食事の準備をしている。子どもたちは「いただきます」の歌を歌い、食事に向かっている。食後はパジャマに着替え、絵本を読んでもらったり、歌を歌ってもらったりして、安心して午睡の時間を迎えている。おむつの子どもの多いが、2歳の子どものトイレで排泄をしている子どももいる。2歳児のトイレの様子を見て、自分からトイレに座りたいと言う1歳児もいる。子どもたちは互いに刺激し合い、園での生活を送っている。

A-1-(2)-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
---	---

<コメント>

0歳児には、這い這いをしながらでも遊べる玩具を用意している。1～2歳児は、年齢にそくした、保育室のコーナーを使っただけでなく、積み木、プラレールなど、自分が遊びたいと思うところで主体的に遊べるようにしている。子どもの「やりたい気持ち」を大切に、環境作りを行っている。外遊びでは、園庭の砂遊びや滑り台などで、思い思いの遊びができるようにしている。天気の良い日は近くの公園に行き、元気に走り回ったりして、静と動を取り入れた遊びができるよう、計画を立てている。また、年齢が上になると、友だちの存在が気になるようになり、玩具の取り合いが起こることがある。保育士は両方の子どもの話を聞き、順番に遊ぶよう介入し、ケンカになったときは「ごめんね」が言えるよう働きかけている。

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

0歳児の登園時には、保護者と離れる不安を考え、しっかりとスキンシップを取りながら受け入れている。また、保護者の不安も解消できるよう、声掛けに気を配って、受け入れを行っている。保育室にござのマットを敷き、安心して寝転んで、這い這いができる環境を作っている。家庭と同じような食事、同じミルクや乳首を使用するなど、子どもが安心できるよう工夫している。また、触って感じる感覚遊びをたくさん取り入れ、抱っこやおんぶを取り入れて、スキンシップを大事にしながら保育している。遊びが終わると、保育士と一緒に手洗いをし、「きれいになったね」「さっぱりしたね」と声掛けし、喃語(「あうあう」「んまんま」など赤ちゃん特有の言葉)にも話し掛け、応答的保育(子どもが話しかけてきたことに対して、大人が子どもに寄り添って応えること)を行っている。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

1～2歳児は、運動機能も発達し、身体を使った遊びが活発になる。走っていて転んだり、高いところから飛び降りたりすることもあがるが、いろいろな体験ができるよう、安全に注意しながら保育している。また、言葉遣いや挨拶など、保育士が見本になって関わるようにしている。自分でやろうとする気持ちが芽生え、友だちの真似をしながら、自分でできることが増えている。保育士は「上手にできたね」「すごいね」と声掛けしている。語彙も増え、ごっこ遊びなどの様々な体験を行うことで、子どもたちは成長している。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	
--	--

<コメント>

0～2歳の乳児を対象としているため、評価外とする。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
---	---

<コメント>

今年度は障害のある子どもはいない。法人全体で、「みんないっしょ」の保育を実践しており、障害のある子どもを受け入れる体制を整えている。

<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子ども在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

通常の保育時間は7:00から18:00で、18:01～19:00を延長保育としている。現在、延長保育を利用している子どもが3～4人いる。延長保育時間は、遅番の保育士が玄関に近い保育室で、保育を行っている。その時々状況を見ながら補食を提供している。昼間の引継ぎ事項は、担任の保育士がメモ用紙に記入し、遅番の保育士に引継ぎ、遅番の保育士が子どもの一日の状況をメモ用紙を渡しなが、口頭で保護者に伝えている。保護者は玄関のホワイトボードに書かれた今日の活動や、今日の食事のサンプルなどを見て、一日の様子を確認している。0歳児は眠くなってしまったり、1～2歳児は「ママまだ?」と不安な様子が見られることもある。絵本を読んだり、好きな玩具で遊んだりしながら、子どもが落ち着けるようにしている。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	
--	--

<コメント>

0～2歳の乳児を対象としているため、評価外とする。

A-1-(3) 健康管理	第三者評価結果
【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<コメント>	
子どもの登園時には、食事はしっかり摂れているか、夜は良く寝ることができたかなど、家庭での様子を保護者に確認している。そして、子どもの機嫌はどうか、鼻水は出ていないか、咳はしていないかなどの視診を行い、今日の健康状態を把握している。午前の活動が終わり、子どもたちの午睡の時間帯に、調整会議を行っている。午前の子どもの遊びの様子、昼食の食べ具合などを話し合い、子どもの健康状態を確認している。子どもに発熱があり、実測値37.5℃以上の場合、保護者に連絡して迎えに来てもらっている。	
【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a
<コメント>	
年2回、市内の小児科の嘱託医が、子どもたちの健康診断を行っている。また、年2回、市内の歯科医師が口腔内の診断をしている。特に異常がない場合も、虫歯になりかけているなどの診断があった時も、保護者へ結果を報告している。歯科治療が必要な子どもは、保護者に通院を促している。2歳児クラスでは、保育士の指導で、昼食後に歯磨きの練習を行っている。子どもたちは、歯磨き後の口すすぎも上手にできるようになっている。	
【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<コメント>	
卵がアレルギーの子どものがいて、医師の指示のもと、除去食で対応していたが、今年になり、保護者と病院が話し合い、卵アレルギーを緩和する治療法を行っている。治療後、11月より除去食が解除になったため、現在はアレルギー対応の子どもはいない。	
A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<コメント>	
子どもたちは、保育士やみんなと一緒に食事を摂り、食べることの楽しさを感じながら食事をしている。食べ終わると、保育士にお代わりをもらい、ほとんどの子どもが何度もお代わりをしている。野菜が多い食事も、子どもたちはすすんで摂取して、食べ終わってから、お代わりをしている。月齢に合った食器を用意し、子どもたちは「僕のはくまちゃん」など、自分の食器を見て楽しんでいる。保育士と調理職員が子どもの嗜好チェックを行い、子どもの好きなメニューを把握するようにしている。子どもの卒園時には、一人ひとりの好きなメニューを、レシピを付けて、卒園祝いとして保護者に渡している。	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント>	
「食品衛生管理マニュアル」を整備して、それに基づき管理している。肉類や魚類、野菜は、地元の商店から取り寄せている。保育士が直接、食材を受け取った時は温度を測り、冷蔵庫に入れている。行事食など、子どもが喜ぶメニューを提供している。ハロウィンでは、かぼちゃを使ったカレーや、お化けの形の肉まんを提供し、子どもたちは大喜びしている。玄関には、今日の献立のサンプルを展示し、保護者に確認してもらっている。毎月の園だよりやクラスだより、献立表以外に、レシピを保護者に渡し、家庭でも作ることができるよう働きかけている。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> 保護者とは毎日「育児日記」のやり取りをして、家庭と園での子どもの状況を共有している。また、降園の際に、今日はこんなことができた、走っていて転んだけれど怪我はなかったなど、子どもの様子を口頭で伝えている。保育士は保護者と一緒に子育てをしているという意識を持ち、子どもの成長を見守っている。春には保育参観を行い、担任やクラスの紹介、友だちの紹介などを行い、園の方針を理解してもらう機会を設けている。両親揃って参加してくれる家族も多い。運動会などの行事には保護者も参加し、家庭と連携を取りながら、子どもの成長を見守っている。	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント> 保護者とは毎日、登降園の際に、子どもの状態を報告し合い、保護者からの相談も受けている。家ではあまり食べないこと、今日は寝不足気味など、保護者の心配事を解消できるようアドバイスをしたり、その日の保育の中でゆっくり午睡をさせるなど、内容に応じた対応を行っている。保護者がゆっくり相談したい時には、プライバシーに配慮して、場所を設けて話を聞いている。相談内容は記録に残している。	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<コメント> 園の玄関に、虐待防止の掲示物を掲示している。また、毎朝の視診で、子どもの身体にあざや傷がないか確認している。不審なあざなどが見つかった場合は、写真を取り、保護者に状況を確認するようにしている。これまで、子どもの様子や保護者の様子から、虐待などの不審な状況は見られていない。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
A-3-(1)-① 【A20】 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<コメント> 保育士は半年ごとに保育の振り返りとして、チェックシートを用いて自己評価に取り組んでいる。保育の振り返りは、園長が内容を集計している。本園の園長と保育士との個人面談の際に、今年度の振り返りや、来年度の目標、希望などを話し合っている。自身の保育実践を振り返り、自己の保育観についても振り返る機会としている。	